

令和4年度



鶴小だより

学校教育目標 やさしく かしこく たくましく

ふじみ野市立鶴ヶ丘小学校

11月号

校長 秋元 江利子

ホームページ更新中

先日は、校内音楽会のためにご来校いただきありがとうございました。久しぶりに生演奏を披露することとなり子供たちも大変張り切っておりました。保護者の皆様のあたたかい拍手に子供たちの感動も大きく広がりました。これまでのご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。



思いは伝わる ～本気で褒めて 本気で叱る～

さいたま市出身の宇宙飛行士若田光一さんが国際宇宙ステーションに長期滞在するという報道がなされました。若田さんの飛行は5回目で日本人最多を更新します。また、50代後半の飛行は日本人として最高齢となるそうです。

夢に向かって何度も挑戦する若田さんはどのように育てられたのか興味をもっていたところ、若田さんのご両親の子育てに関するエピソードが紹介されていた記事に出会いました。

幼稚園の頃、光一は帰省で飛行機を乗るのを楽しみにしていた。着陸したのに声をかけてもなかなか降りようとせず窓の外を見ていた。「早くしないと最後になってしまうよ」と手を引っ張ろうとした時に、光一が集中して外を見ていることに気づいた。視線の先に目をやると、そこには操縦席や翼があった。熱心に観察していたのだ。その時に「飛行機に興味があるのだな」と気づいた。光一は飛行機以外にもたくさんの方に興味を抱いた。「お店屋さんになりたい」とか「くみ取り屋さんになりたい」（当時は水洗トイレではなく便をくみ取っていた）等、何を言われても「いいよ。お役に立つ仕事だからがんばってね」と否定することなく、子どもの考えを尊重して励まし続けた。

また、普段の育児は母親が中心となっていたが、父親は「ここは大切」という時には厳しくしつけた。「許してください」と泣いて謝っても簡単には許さない。「よく考えなさい」と考える場所と相当な時間を与えた。その後、膝と膝を突き合わせ「なぜ叱られたか」「どこが悪かったか」親子で本人が納得するまでじっくり話し合った。 ～一部抜粋～

お母様はおっしゃっています。「子供は誰でも生まれながらにして、その子だけの芽を持っています。その芽を摘み取らないように、よいことをしたら本気で褒め、悪いことをしたら本気で叱り、耐えることも教える。そうすれば安心して枝葉を伸ばしいつかきれいな花を咲かせます」と。

この記事を読み、共感できることがたくさんありました。先日、本校のある児童が呟いていました。「私のママはやさしいよ。だから大好き。でも怒ってくれるママも大好き。」と…。きっとご家庭で本気で褒めて、本気で叱ってもらっているのだろうと感じました。子供は親の愛情を肌で感じきちんと受け止めています。日々の子育てはテキスト通りにうまくはいかないものです。しかし、大切なことは伝わっていると信じて、保護者の方、地域の方、学校の役割を生かし、その子の持つ芽を大切に育てていきたいと感じているところです。

《お知らせ》

学校だより・保健だよりについては、これまでお子様を通じて保護者の皆様へ配付しておりましたが、ペーパーレス化を進めるため、3学期よりホームページへの掲載のみとさせていただきます。ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

